

新潟市議会議員 たむら要介 市政活動レポート VOL.2

平成 28 年 8 月発行

ご挨拶



昨年 5 月に市議会議員としてのスタートを切らせていただいてから、はや 1 年と 3 カ月が経過いたしました。よく「あっという間だったでしょ」と問われますが、「いえ、長い長い 1 年でした」不謹慎かもしれませんが、私の正直な実感です。秘書として 2 年、議員として 1 年ちょっと。サラリーマン時代が遠い昔のような気がいたします。裏返せば、本当に中身の濃い、充実した毎日を送らせていただいているのだと思います。日々を大切に学び、行動させていただけているということ。これは私の活動に対し、あたたかいご声援をいただいている皆さまのおかげと心より感謝いたします。

「イデオロギーで政治を行ってはならない。大事なのは現実を生きる人の生活が良くなることだ。」

これは最近話題のウルグアイのホセ・ムヒカ元大統領の言葉です。

私はこの言葉を念頭に置きながら、自分の言動、行動、あるべき姿を考えています。党や会派の一員としての私もおりますが、議員としてのたむら要介はそうありたい。

さて 2 年目はどういう 1 年になるのか。皆さまに負託いただいた任期はあと 2 年と 9 カ月。

少し焦りもでてきましたが、前を見据えて全力で頑張りますので、皆さまには今まで同様、叱咤激励のほどどうぞ宜しくお願いいたします。

新潟市議会議員 田村 要介

◆TOPICS

・中原先生の捲土重来を期して



約 2 千票という僅かの差で、私や皆さまにとっても、新潟にとっても、本当に大切な方を国会に送ることが叶いませんでした。私も、新潟支部の事務局次長という大役をいただき、全力で戦わせていただきましたが、力及ばずとなりました。

新潟市における得票数は以下のとおりとなりました。

新潟市 179,395 票 (M 177,906 +1,489 票差)

西 区 38,709 票 (M 34,159 +4,550 票差)

多くの皆さまのお力添えを頂戴いたしました。ありがとうございます。中原先生の捲土重来を期し、私も備えてまいります。

★お知らせ

創刊号につきましては、デザイン、校正、印刷をプロにお願いさせていただきましたが、今回から、できる限り自分で作ってみることにいたしました。(事情はお察しください)

少々可笑しい部分があるかと思いますが、手作り感もご一緒に味わっていただければ幸いです。

・議会での一般質問が記事にとりあげられました

平成28年度の新潟市の予算は大変厳しいものとなりました。厳しい予算であるからこそ、地元にも十分に配慮しなければいけない。新潟市の安全、環境、暮らしを守るためにも、安定的な公共事業の継続発注が必要であると訴えさせていただきました。これは建設業だけの問題ではありません。農業、漁業も然り、その他産業も然り、地元を支え、守るべき人、企業の安定を支えるということは、すなわち我々市民の生活の保障に繋がっていることはいまでもありません。無駄な規制は緩和しなければいけません。しかし、特定の人、企業が儲かる仕組みでは地方は生

本誌では昨年の12月号で、この件に関する記事掲載し、発注時期は石井排水区下水道工事の入札この質問の真前だ。

「何となく」とかという雑感でいろいろ批判もされていますが、そうした批判に耐え得る客観性、正当性の確保が必要だと考えます。」(同)

こうした「地元を忘れ」といった声がかかるのは、新潟市の工事発注量が相当に減少していることにも原因があるようだ。今年2月定例会の一般質問で、田村要介市議員(西区、新市民クラブ)が指摘している(会議録を本誌要約)。

「平成28年度普通建設費は99億円の減少、17・7%のマイナスとなりました。建設工事の発注率は約25%、99億円の建設費が減少するといことは、約25億円の現場に從事する方々の給料が削減されていることとなります。例えば日当2万円計算すれば12万5千人分の働く場所がなく、約600人分の雇用が新潟市からなくなる、と思うていただきたいと思えます。そのほか55億円の工事費に

地産地消に伏線あり

田村要介市議員の論議は、前出の皆川、中山両市議員とほぼ同じだ。

「諸市議員はマニフェストでできる限り地元企業の活用を図っていきま」と宣言されています。(公共事業の)ボリュームが減れば過当競争が始まります。廃業や倒産も出るでしょう。市長は「公共事業の地産地消」に向け、どう具体的な配慮をされるのか。これが一番重要だと思えますが、具体的にどうお考えをお聞かせいただけますか。」

市長は「公共事業の地産地消」に向け、どう具体的な配慮をされるのか。これが一番重要だと思えますが、具体的にどうお考えをお聞かせいただけますか。」

「建設工事の発注では施工可能な市内業者が少なく競争性が担保できない場合や市内企業では施工できない場合などを除き、市内企業への発注を原則としています。維持補修費は、市内企業への発注が大半で今後も増加する見込みであることから、地域への発注の増加を促して市内企業の安心感を得

き残れません。新潟市の財政が厳しい状況であるからこそ、「今」必要なのです。(財界にいがた7月号)

BRTについて、我々1年生議員はできる限り触れたくないというのが本音です。

「BRTに関する住民投票条例制定案」が上程され、私は「反対」をさせていただきました。約6万という署名の重さ。特に西区は「乗換え」という実害がある方々が大勢存在し、「裏切り者」というお声まで頂いたなか、覚悟の上反対です。私は、拙速に住民投票をするということは色々な意味で新潟市民にとってマイナスが大きく、だからこそ改善、検証の時間が必要である。それが反対の理由です。

もうすぐBRTの導入から1年が経過いたします。議員からの提案も数多くさせていただきました。少しずつ前には進んでいると思いますが、「市民のためのバスシステム」には遠い道りであるというのは私も率直に感じています。

バス半額はシニアだけ？ 「学生にも」議員要望

新潟市議会は1日、2ラフ)は、大生との意見交換の際に聞いたとす。市が、高齢者のバス運賃を半額にする「シニア半額」を今夏に本格実施することを踏まえ、議員から「学生にも『半わり』の検討を」との指摘が上がった。

池田技監は「世代間格差を感じている若者にも光を」と対応を迫った。

池田技監は「世代間格差を感じている若者にも光を」と対応を迫った。

「議員間討議」対象拡大

新潟市議会は1日、議会改革推進会議を開き、6委員会の議案審査などについて討議する「議員間討議」に討議する「議員間討議」

今年新潟駅前で島式ホームの実証実験を行う予定です。新潟駅の高架と併せたなかでどうなっていくのか。我々も厳しくその状況を注視いたします。(新潟日報2月2日付)

・その他様々な活動を行っています



「ボランティア活動」
所属するライオンズクラブの皆さまと2月に行われた「スペシャルオリンピックス」の募金活動を行いました。知的障がい者のためのオリンピック。新潟での開催は大変に意義のあるものとなりました。

写真は東区の荒井議員、内野ライオンズの池田さん



「健康なまちづくりを考える会」
保守系議員有志で「健康なまちづくりを考える会」の立ち上げをいたしました。
小学校の学校田を訪問し、小学生と一緒に田植え活動です。まずはここから出発です。



「学生さんとの意見交換会」
これは北区の学生さんとの意見交換会の様子。
新潟市議会は議会終了後、各区に出向き、議会報告会を行っています。
新潟市が抱える人口減少問題、高齢者問題、少子化対策、まちの活性化問題など、活発な意見交換をさせていただきました。皆さん意識がとても高く、頼もしい限りです。



う〜ん。やっぱり私には「ヘルメット」が似合います。

左は信濃川の浚渫船（しゅんせつ）白山丸の視察の様様。

右は神戸市の橋梁補修の現場視察。インフラ全般の補修マネジメントの研修の様子です。



「まちづくりを考える」

左は宅建協会の皆さま、地域の皆さまとの「まちづくり流通委員会」の様子です。空家問題について、意見交換を行っています。右は京都市での空家活用事業の視察の様です。ちゃんと聞いています。

政経懇話会を立ち上げさせていただきました

たむら要介 政経懇話会発足式



6月17日、イタリア軒において「たむら要介政経懇話会発足式」を執り行いました。100社以上のご賛同をいただき、いよいよ出発です。

当日は中原先生、石崎代議士、高橋県議など多数ご来賓にもお越しいただき、門出を祝っていただきました。この会が本当に有意義なものになるように、精進し、頑張っ参ります。



→<http://y-tamura.net/> 是非ご覧ください。

公式ブログ「新潟市議会議員 たむら要介活動日誌」

→<http://blog.goo.ne.jp/yousuketamura>

公式 Facebook

→<http://www.facebook.com/tamura.yousuke.7>

プロフィール

たむら要介

昭和43年6月生まれ、47歳。

新潟市立坂井輪中学校卒業
新潟県立新潟高等学校卒業
私立青山学院大学卒業

地元の建設会社に入社、営業として街づくりに携わる
東京勤務を経て、7年前に新潟へ

平成25年、建設会社を退職、衆議院議員公設秘書に
平成27年、秘書を退職、新潟市議会議員に初当選

田舎暮らしにあこがれ、6年前に西区笠木に移住。
両親、妻、中学生、小学生の子供と3世代6人暮らし。
自由民主党新潟支部副部長。宅地建物取引士。

